時事新報

政府の人才

政府の門戸を開きて大に民間有爲の士を網羅す可しとは我輩が多年政府の當局に勧告する所なれども若しも果を奏かにして在野の元老を容るゝ能はずとせば責は文官試験法を廢止して民間少壯の徒を政府に入らしむるの便益を計らんみと當今の急務と云ふ可し我輩は必ずしも野に遺賢なしと云ふ古語を政治上の眞理とする者に非ずと雖も政府の近情少壯人物の欠乏を感ずること甚だしき殆んど其生存にも關係せんとするの勢あるを見て默々たる能はざるが爲めなり抑も維新以降、我社會の組織は政治を中心として一切みれより割り出すの風なりしが故に種々の弊害ふれに伴ふを免れざりしと雖も之と共に兎に角、天下有爲の人物を政府に集め政府は殆んど人才の府と云ふ可きものありたるは掩ふ可らざるの事實なり是れ政府が雖多の失策不人望あるに係はらず猶ほ其生存を安固ならしめ得たる所以なり然るに昨今の事態は果して政府に人才乏しと云ふを得べきものなるか我輩聊か疑惑する所なきを得ず或は衆議院中に愚物多きは必然の勢にして人望と實力によりて其生存を支ふるの外なき政府が之と比較して自から足れりとするが如きは以ての外の事と云はざるを得ず況んや衆議院の衆議政府の官吏に比して決して愚ならず若しも彼等をして官吏の有する便益を有せしめば今日の官吏と智愚何れに軍配を上ぐ可きや甚だ疑はしきに於てをや若し夫れ去て實業界に於ける人物と政府の人物とを比較せんには政府が人才の府たらざるみと意々以て明白の次第なるを見る可く滔々たる人才相率ゐて政府を去て實業界に入らんとするを見ては大勢の向ふ所を卜す可きに非ずや今日の政府は圓滿の政府に非らず其政策は高民を滿足せしむ可き大經綸のみに非ざるは政府自らも認認する所なる可し已に國民に滿仰せらるゝ福圓滿の政府に非ざる以上は其實力、才能に於て天晴れ天下を指導し國民をして厭やゝ〳〵ながらも之に服從せざる可らざらしむるみそ其生存第一の策と云ふ可けれ然るに政府近日の事情を見るに思慮此に及ばざるものは如何なる次第にや我輩の輕舟に堪へざる所なり在野の元老を容れて其政策を用ふるみと或は凡俗の人情として殊に難き事なりと云ふか暴れ亦可なり然らば何故に其門戸を開きて少壯有爲の士を入れざるや文官試験の如き制度千萬なる法律を厳守して空しく天下有爲の少年を駆逐し唯英語の文章に巧みに算數を善くする校書輩を取り政府高んぬ歟と信ずるは果して眞面目の政治か物の文官試験法の設けられし當時にかゝては藩閥[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜報

○北清所見

（三月六日）

北京に於て　特派員　松尾　久男

公使、總理衙門を訪ふ

今六日午後二時半我が林公使は高州書記生を從へ堂子前十時を期して文華殿に上り清帝に拜謁したりと云ふ當日各國公使及び書記官は九時頃より奥を飛ばして參内し羽を連ねて設けたる天幕の内に待合す内閣出御ありて文華殿の面一段高き處に着坐あるや米、露、獨、佛、伊、日、和等の各國公使及び英國代理公使幷に各國書記官、公使館付武官等は御前に出で米國公使は首席公使の故を以て進みて英語にて謹んで新年を祝し奉り皇帝陛下の聖躬無恙に併せて陛下の臣民の幸福を祈り奉るとの意味を以て新年の祝辭を奏し皇帝は卿等の大皇帝陛下及び大統領閣下の萬歳を祝し萬臣民の幸福を祈り併せて北京に駐在する卿等は互に親睦を旨とし相助け相頼り以て友誼を全うせんみとを望むとの勅語を賜ひ露國一等通譯官ポッポフ氏は之を佛語に翻譯し斯くて式終りて各自退散せりと云ふ當日我公使館よりは林公使を始め内田書記官、鄭書記官、神尾中佐の諸氏參列せり

元來斯る場合には英語を用ひ來りしも過日總理衙門の年賀に關なくも露、佛公使が其習慣を破りたる以來英佛語倒れを採るべきかは各國公使間の問題となり露、佛公使等は斯る外交上正式の場合に佛語を用ふるは歐洲各國の習慣なれば爾來佛語を用ふるみと正當なれと論じ英、米の公使等は從來清國にて英語を用ひ來りし所以は英語を解するもの多きが故なり然るに今や突然われを佛語に改むるの要なしと論じ我公使の如きも亦此說を採りたるものゝ如くなりしが多數の意見は之に反したるにやポッポフ氏は佛語を飜譯するに佛語を以てせりと云ふ

總理衙門の饗應

昨五日總理衙門に於ては各國使臣を招待して新年の宴を張りたり當日は午後一時半各國公使、書記官等同衙門に出頭し轎を降して客を打捕ふを待ちて衙門大臣は悉て設けの天幕内に導きて接待の勞を取り支那酒と支那料理を饗應したり此日我公使館よりは林公使、内田書記官、中川軍醫等參列せり而して露國公使及び飜譯官ポッポフ氏は何故か此宴席に參列せざりしと云ふ

官書局の新設

去る五日の官報に依れば總理各國事務衙門の奏請に依りて官書局と命ぜられたり元來此官書局なるものは强學會の變體にして强學會の事は余が屢々報じたる處なりしが此度意外其規模を擴張し總理衙門は之が爲めに年々一萬二千兩の經費金を出し南洋人を雇入れて顧問となし翻譯を主として雜誌を發行する計畫にして其顧問に就て盛に雇入れたるリチャード氏を聘せんとす去る[illegible]のあり又現に上海機器局にあるフライアル氏も[illegible]として名指さるゝものゝ如し氏も亦支那にあるゝ三十年、此間の事情に通じて能く所なく教授は寧ろ氏に請するが如しと云ふ而して印刷器械の如き日本より買入れんとし今現に人を派して日本に至らしめ印刷の傳習を受け居るとも傳ふ

李伯の出發

李伯は本月三日を以て當地を出發せり伯が當地を發して天津に向ふ爲めに常々兩地を往來する馬車は殆ど皆無となり二倍三倍の價を投じて漸く得らるゝ有樣なりと清國官吏の旅行も茲に至りて大難と云ふべし

鄭書記官の天津行

事務引續の爲め鄭公使館書記官は豫定の通り去る四日當地を發して天津に向へり何れ十日程同地滯留の上再び北京に歸り檜原飜譯官の到着と共に更に下津すべしとなり

和蘭公使の歸國

現任和蘭公使は夫人を迎へんが爲め不日當地を發して歸國の途に上るべしといふ

○露國人漢學を學ばんとす　露國にては其國人に漢學を研究せしめんとて清國より儒生若干人を招聘せんとせり而して其俸給は一箇月百弗なりと云ふ

小說

刷合婿

第十回　ふたば

勸め上手といふにはわらねど、口を潤つて呑ませぬ酒の上手といふにはわらねど、口を潤つて呑ませぬ酒の酒に、呑は何事とも判らねど、いふが餘に一二本の銚子をあけて、我知らぬ間に酩酊たる料理の數々を平げる程に、早や二時餘り經ちたれど、待ちに待ちたる露子は來らず、如何に女が見合ひの遲定め、御化粧に手間暇かゝるとて、さりとは餘りの長さ加減かな。

心此處にわらざれば、嗜む酒も水を呑む樣にて、微醉とさへもなさゝるに、氣のみ焦々慌かになれば、頭の心はヅキ〳〵と痛み出して酩へがたく、幾度か聞ふ〳〵と口へまでは出れど、流石に町子の思わくを憚りし吾れも、今はどうしても忍耐出來ねば。

「お町さん、どうして呉るの、私も大切の用を措いて來たのに、此樣に俟たされては堪らない、彼是もう九時だらふに、來られねば來られぬで、何とか斷つて呉ればいゝのに。

と早や中臨の鬪子も高し、澄し込んで家を乘出した時の氣取加減も今は何處へか忘れて、人目なければ投出したる兩足を動き。

「足も痺れて仕舞ふ。

と不平たら〳〵、町子も流石に氣の毒にやなりけん、まわ〳〵と酒をついで。

「此樣な譯は無いのだけれど、何故來ないのだらふ、金田屋でもどうかしてゐるよ。

と、氣の毒氣の獨り言。

「夫でも貴樣、もう少し御待ちなさい、どんな大切な用事が出來たのか知れやしません、來られなければもつと早く斷つて來ますわ。

「なつて早速にすと、[illegible]と、漸々酒も廻り來なれば、何がに角に[illegible]て下階まで用を[illegible]面り角まで來る時、ちて一人ダレ込んだ銀杏返しのキリ、を挿したるに、鶴角物好きの床しき限んは、「オヤ」と思はず口走り思へば見合ひの場面は、ちと似合ぬ扮裝現在夫と知りたる人口をも利かずに逃げしたるのみにて、

「オヤ御免下さい

と慇懃なし、吾は只樣子にては、露子中

「どうも失禮

と吾も慇懃の挨拶分れぬ、さるにてもかな、露子の事時いふ風にわらず、先居て、今が歸りの樣した事の行違ひやう戰前より。

「オヤ、姓川先生、

と挨拶は女の聲、

見れば又[illegible]笑みながら我前に[illegible]

「先生、まわ[illegible]は飛んだ失禮を[illegible]とは、月見の宴の[illegible]今更此樣な事言は[illegible]

「いゝへ、私[illegible]

と吾は言ふべきと[illegible]

「今日は何方（か[illegible]りた天氣がよろ[illegible]親父と一所に、[illegible]保養といたしま[illegible]

といふ、[illegible]を見合ひ[illegible]